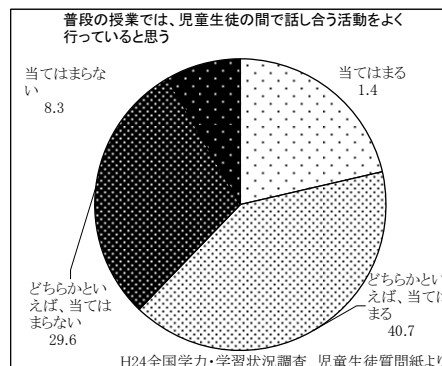


Ⅱ-2 「話し合う力」を育てる指導

先生、話し合うと考えが深まった！

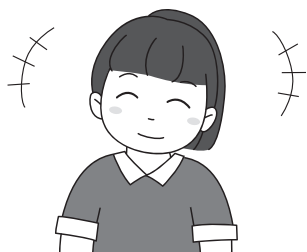
☆ 香川の子どもは話したがっているのか？

右のグラフは、「普段の授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う」の結果です。この結果から、もっと話し合い活動をしてみたいと感じている子どもの姿が浮かんできませんか。



☆ 話し合うことは大切なのか？

教師自身が話し合うことの大切さを、きちんと認識することが大切です。



話し合うことの効果

- 授業に主体的に取り組めるようになる。
- 話すために、相手の言うことをよく聞く態度が育つ。
- 相手に意図を伝えるために、論理を組み立てる力がつく。
- 話すことによって、物事の理解が深まる。
- 相手の話によって、自分の意見を修正する力がつく。 など

話し合うことには、様々な効果があります。また、話し合い活動を取り入れることで、話し合う力はついていきます。

☆ 話し合いが成立しない授業

話し合いが成立しない。話し合う力がないのではないか。その原因を子ども側と教師側から見てみましょう。こんな授業を見たことはありませんか。

子ども側

- 教師や友達の話を聞いていない。
- 自分の話すことがまとまっていない。
- 友達の発言を冷やかす。



教師側

- 授業中によくしゃべる。
- 発言を取り上げず、「もうない」「ほかに」という発言をする。
- 静かになっていないのに発問する。

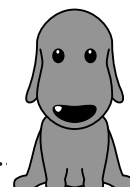


これでは、話し合う力を育てるところか、発言すらできない子どもがいてもおかしくありません。

話し合い活動の時間の確保！

「話し合い活動をしたいけれど、授業時間が足りない。」と感じている人もいます。しかし、話し合うことの効果を考えて、ぜひ行いたい活動です。そのためには、小・中学校の学習指導要領を再確認し、既習内容の整理と時間配分の見直しなどを工夫しましょう。

わん！ポイント！



☆ 聞くことから始める。

相手の話している内容が分からなければ、話し合いにはなりません。活発な話し合い活動にするために、まず、聞くための指導をしましょう。

- <例> ・ 話している人がいるときには、途中でさえぎらないで、最後まで聞く。
・ 大事だと思うことは、メモをとりながら聞く。



☆ 話し合いの課題を明確にする。

自分の意見をもてば、話したくなります。でも、何を考えればよいか分からなければ、自分の意見をもつことはできません。話し合いとなるような具体的で分かりやすい課題を設定しましょう。

☆ 話し合いが苦手な子どものためにひと工夫する。

○ 既習内容の理解が不十分な子ども

友達の話していることが分からない…

- ・ 話している内容について、教科書やノートのどこに書いてあるのか、黒板などに書いておきましょう。

課題がどの内容に関連するのか分からない…

- ・ 黒板などに既習内容のまとめを書いておきましょう。

○ まとめるのが苦手な子ども

考える時間が足りない…

- ・ 5分の説明よりも、1分の沈黙で自分の意見をもつ時間の確保をしてみましょう。

どうまとめればよいか、分からない…

- ・ 文型の提示や個別説明、適切な接続詞を入れるなど、手助けをしてみましょう。

○ 人前での発言が苦手な子ども

自分の発言に自信がもてない…

- ・ 安心感と自信をもてるように、教師が子どもの発言にうなずいて（肯定的表現）みましょう。

大きな声で発言するのが恥ずかしい…

- ・ 教室内で、その子から最も遠いところに立つようにしてみましょう。

大勢の前で発言するのが恥ずかしい…

- ・ 1対1、4人程度、10人程度、学級全体と段階を追いながら話し合い活動を行ってみましょう。

安心して発言できる雰囲気！

子どもたちが、のびのびと活発に「話し合い活動」を行うためには、自分の発言を肯定的に受け止めてくれる学級の雰囲気が必要です。巻末の「学級経営チェックリスト」を活用して、学級経営を工夫してみましょう。

わん！ポイント！

